

受理第30-9号

## 請 願 書

件 名

家庭ごみの収集について、有料ごみ袋制を導入しないことを求める請願

紹介議員

山崎 匡、水谷 修、宮本 繁夫、山崎 恭一、

坂本 優子、大河 直幸、秋月 新治

## 請願趣旨

宇治市の第3次ごみ処理基本計画の素案には「有料ごみ袋制の導入について検討します」と書かれています。その理由を「ごみ減量化をめざす」とことと「新たな財源確保のため」としています。

わたしたちは、各家庭において細かな分別をして、カレンダーを見ながらごみ出しをしています。また、買い物にはマイバックを持参する、地域の古紙回収事業に協力するなど、ごみを出さない努力をしています。その結果、宇治市では、家庭系のごみの量は減っていると聞いています。

こういう市民の努力があるのに「ごみ減量化を進めるために有料ごみ袋制の導入」というのは、納得できません。ごみ減量化は、ごみ袋有料化より、市民意識の啓発で進めることはできるのではないのでしょうか。そもそも市民レベルでできることには限度があり、業者に包装形態の工夫や軽減を指導する方が、ごみは減らせるのではないのでしょうか。

「新たな財源確保」という理由も納得できません。ごみ収集・処理は、税金で行うべきものではないのでしょうか。

この間宇治市は、公共施設の使用料などたくさん値上げをしました。ごみは、生活していれば毎日出るものです。不要不急の事業である歴史公園には、88億円も税金をつぎ込みながら、市民生活に直結する有料ごみ袋制は、納得できません。

## 請願項目

家庭ごみの収集について、有料ごみ袋制を導入しないことを求めます。

2018年12月3日

宇治市議会議長

坂下 弘親様

請願者

新日本婦人の会宇治支部 支部長 水谷 邦恵